

2019年JAF中部ダートトライアル選手権第7戦 2019年JMRC中部ダートトライアル選手権第7戦
2019年JMRC全国オールスター選抜第7戦 019年JMRC中部ダートトライアル北陸シリーズ選手権第6戦
北陸中日新聞杯 MRTダートトライアル2019 [JAF公認No.2019-2211]

開催日：9月8日 開催場所：輪島市門前モータースポーツ公園 格式：準国内 主催：MRT-金沢 [JAF登録No.公認17003]

フォト／安達正男、JAFスポーツ編集部 レポート／JAFスポーツ編集部

S1クラスで今季初優勝を飾った三枝聖弥選手。父である光博選手もN1クラスで優勝と親子で優勝を飾った。



三枝光博&聖弥親子がダブルウィンの快挙達成

JAF中部ダートトライアル選手権は、これが終われば最終戦のみという天王山の一戦が、北陸能登半島の輪島市門前モータースポーツ公園で開催された。

当日は、時折、日本海からの涼風が吹きつけたものの、残暑厳しい中での一戦となった。コースは外周の林道部分を多く走り込む設定で、メインストレートは逆走でフルに走り、奥の島回りを左回りにクリアする。路面はドライが保たれ、ヒート2では砂、砂利が掃ける箇所も現れたが、後半ゼッケン以降は、ヒート1とタイムが拮抗する傾向となった。

タイトル確定済みの天野佳則選手のデミオが1分47秒台のタイムで暫定首位に立ったPN+S1500クラス。ヒート2に入ると各選手タイムを大きく上げて1分45秒台までベストは塗り替えられるが、天野選手が1分43秒台を切

るタイムで再逆転。今季、5勝目をマークした。「全日本の時もそうでしたが、ここは林道部分でデミオが2速のまま、ずっと行けるんですよ。それと今日は5分山のタイヤがバッチリでした。10年のブランクから去年、復活したんですけど、デミオが滅茶苦茶乗りやすいので勤が戻るのに時間がかからなかったという感じです。」と天野選手は門前とデミオの相性の良さを勝因にあげた。

中部地区はN部門が盛況で、ふたつのクラスとも14台と今回最多のエントリーを数えた。N1クラスはインテグラ、セリカ、ミラージュ、シビックと多士済済の顔触れとなったが、勝ったのは最新のZC33Sスイフトを駆った三枝光博選手だった。

「自分のクルマではないのですが、自分のショップでメンテナンスしている車両をセッティン

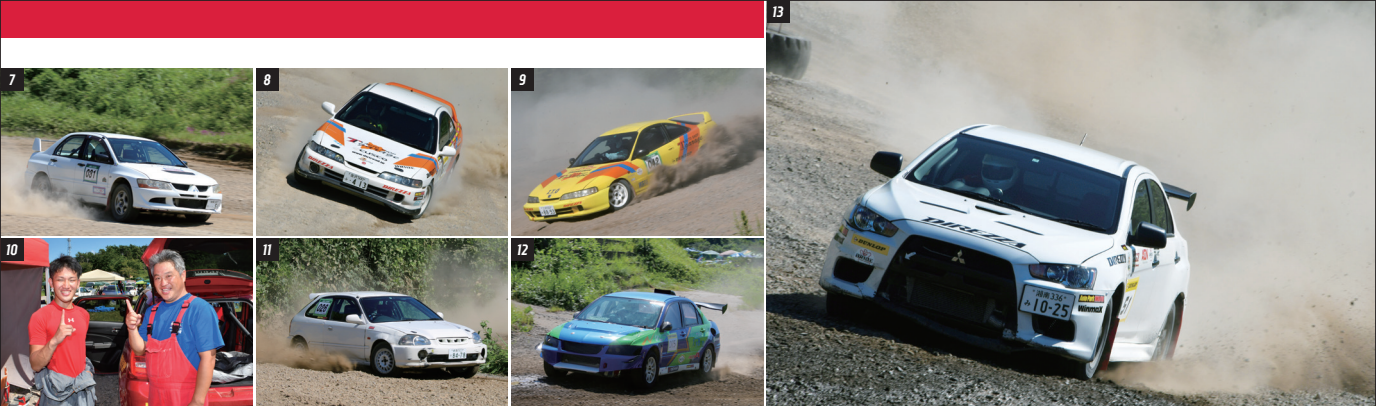
グを兼ねて乗ってるんです。まだ足回りも詰めなきゃいけない部分がありますが、スイフトでもこのクラスで勝てることが証明できたんで良かったです」と三枝選手。2WDオーバーオールウィンとなるタイムも叩き出して、33スイフトのポテンシャルを垣間見せた。

一方、N2クラスは角皆昭久選手がヒート1の3位から逆転。今季2勝目をマークした。

「今年はシリーズを追うつもりはなくて、北陸の大会しか出てなかったんですが、チャンピオンの芽が出てきたので欲をかってしまいました(笑)。2本めの路面が1本めから違いすぎて難しかったんですけど、思ったほどは荒れないと思ったので、ドライタイヤで行って思うように走れました。特にコークスクリューから林道がうまくいきました。ただ今回、村松選手が3位だったから最終戦にもつれたんですけどね...」とチ

1. 併催の北陸シリーズ2クラスは西憲之選手が優勝。2. 北陸4クラスでは竹沢凱貴選手が優勝した。3. 北陸2クラスで2位入賞の蟹将秀選手。4. 北陸4クラスで2位入賞の山田哲次選手。5. RWDクラスで2位入賞の山口順平選手。6. PN+S1500クラスで2位入賞の深谷文彦選手。





7. N2クラスで2位入賞の村松俊和選手。8. S1クラスで2位入賞の岸貴洋選手。9. N1クラスで2位入賞の岸貴洋選手。10. 親子で優勝を決めた三枝光博選手と聖弥選手。11. S1で3位入賞の小木曾穂高選手。12. S2で2位入賞の渡辺徹選手。13. N2はヒート2でぶつぎりのベストを叩き出した角皆昭久選手が優勝。14. RWDでも横内由充選手が大差で優勝を果たした。15. N1は三枝光博選手が今季2勝目をマークした。16. PN・S1500は天野佳則選手が2本とも大差のタイムで快勝。17. RWD表彰の皆さん。18. PN・S1500表彰の皆さん。19. N1表彰の皆さん。20. N2表彰の皆さん。21. S1表彰の皆さん。22. S2表彰の皆さん。23. 北陸2クラス表彰の皆さん。24. 北陸4クラス表彰の皆さん。25. 接戦となったS2は松原実選手が勝利を飾った。26. 北陸4クラスで3位入賞の池田宜義選手。27. RWDで3位入賞の加藤尚之選手。28. PN・S1500で3位入賞の深見延良選手。29. N1で3位入賞の平川和輝選手。30. N2で3位入賞の澤田恭昌選手。31. S2で3位入賞の小宮偉選手。32. ネットヨタ石川の“ナナガールズプラス”のふたりが大会を盛り上げてくれた!!。33. N1で4位入賞の松岡剛志選手。34. N2で4位入賞の山内友和選手。35. S2で4位入賞の蓮池量之選手。36. S1で4位入賞の広上徹選手。



チャンピオンは2位に入った村松選手に確定。角皆選手は勝利を飾ったものの、ちょっぴり残念そうな表情を見せた。

上位8台が2秒の間にひしめく大接戦となったS1クラスは、三枝聖弥選手のインテグラが4番手だったヒート1から見事な打ちちゃりを見せ、今季初優勝。父である光博選手と親子でダブルウィンを飾った。

「2本めは、もっと踏みたかったんですけど、アクセルオフで曲がったところが多かったの、優勝は無理かなと思ったんですよ。1本めは特に前半グダグダで1秒離されたんで、2本

めはワダチの使い方とか考えながら走ったんですけど、ミスもあったんで、目標の40秒台には届きませんでした。でも親父は39秒台ですからね(笑)。ちょっと悔しいです」と聖弥選手は親子対決に負けたことに苦笑していた。

S2クラスは第2戦から4連勝と今季も好調の松原実選手が5勝目を飾り、シリーズチャンピオンも確定させたが、本人は、「2本めはタイム上げましたけど、大失敗しているので」と納得の走りではなかった様子。

「やっぱり今日は林道の走りがポイントでしたね。他に比べて捌けなかったので、攻めすぎて

も抑えすぎてもいけない路面だったので色々攻略法を考えて、その通りに走れたのが勝因でしょうね」と振り返った。

なお新旧86、MR-S、MR2など6車種のリア揺さが揃う多彩な顔触れとなったRWDクラスは、SW20・MR2を駆った横内由充選手が快勝し、2位にはMR-Sの山口順平選手が入賞。86/BRZ勢を見事に抑え込んでいる。

併催のJMRC中部北陸シリーズでは北陸2クラスでミラージュを駆った西憲之選手が、インプレッサが上位4位を独占した4クラスでは竹沢凱貴選手が、それぞれ優勝を飾った。